

## 北斎とジャポニスム HOKUSAI が西洋に与えた衝撃

国立西洋美術館（上野公園） 2017. 10. 21～2018. 01. 28

「葛飾北斎」（1760～1849）は、森羅万象あらゆるものの真を描くことに執念を燃やし、老いてなおその制作意欲は衰えることなく、90年の生涯で数多くの作品を残して19世紀後半に西洋の人々を魅了した「浮世絵師」である。

本展では画伯の「錦絵約30点」などに加えて、フランスを中心に起こった「ジャポニスム」の影響を受けたとされる画家「モネ、ドガ、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、カサット、ピサロ、スーラー、ボナールらの名作品約200点」が一同に会する“夢の共演”（会期中に展示替えあり）として開催されている。



### 《富嶽三十六景 東海道保土が谷》

「保土が谷」は日本橋から4番目の宿場で、松並木を透かして見える富士山を眺めながら東海道を行きかう旅人と、駕籠、馬子、虚無像など実に多彩で、江戸の人々の生き生きとした様子が描かれて旅する楽しさが伺える。

街道の松並木は、印象派の「モネ」が影響を受けたことで有名である。



### 《陽を浴びるポプラ並木》 1891年

油彩・カンヴァス

「クロード・モネ」（1840～1926）は印象派を代表するフランスの画家で、本作品は、フランス・ジヴェルニー郊外で川に浮かべた舟上から明るい日差しを受けて描かれたもので、垂直と水平の線を強調した構図が特徴で注目される。

作品は、光の戯れと繁栄を追求した「モネ」の代表作の逸品で、同一構図の作品が他に数点あることが知られている。

画面は、青い空と白い雲に大きく全景に描かれた3本のポプラが、緑とばら色の生み出す晴れやかな風景を描写した連作の一つである。